

**令和元年度
第2回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和2年3月17日(火)

場 所：藤島庁舎 3階大会議室

第2回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和2年3月17日(火) 16:00～17:45
- 会 場 藤島庁舎 3階 大会議室
- 出席委員（五十音順） 8名
井上佳奈子、上野隆一、大沼恒司、高橋和夫、
高山千代子、田中壽一、富樫達喜、成澤 剛
- 欠席委員 7名 菊池健司、齋藤真如、澁谷徹、菅原きよ、高橋麻耶、野宮奨、丸山良子
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 武田壮一、総務企画課課長 井上克浩、
市民福祉課課長 伊原千佳子、産業建設課課長兼エコタウン室長 成田譲、
農業委員会参事兼事務局長 齋藤智博、農業委員会主幹 佐藤友志
総務企画課課長補佐 叶野仁、総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、
総務企画課総務企画専門員 叶野進
〈本所〉 企画部地域振興課地域振興専門員 本間育子
- 次 第
- 1 開 会（総務企画課長）
 - 2 あいさつ（上野会長）
（武田支所長）
 - 3 協 議
(1) 令和2年度藤島地域主要事業について 資料1 資料2
(2) 地域振興に関する意見交換 資料3～6
(3) その他
 - 4 閉 会

【会議概要】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協 議
- 4 閉 会

2. あいさつ（上野会長）

みなさんこんにちは。いまコロナウィルス、山形県ではまだ発症はありませんが、日常生活なり経済活動ではだいぶ影響を受けているようです、幸い藤島地域はそれほど大きな変化はないようです。右肩下がりになっていることは確かなわけですが、なかなかない方法が見えません。皆川市長に代わって3年目、市長が始めた未来事業では当地区でもヒスカを中心に変化が出てきております。ただ表面的変化というものと実質的变化のものがなかなか一致はしていないと私は思っており、このあとヒスカの説明もあると思っておりますが確かに脈合いをつくりだす要因にはなっているが、まだまだ経済的な功績までには結びついていないのではと思っております。

これからの事業は経済的な利益をつくるのも大きな課題ではないかと思っております。今日の日程はこれから5時半までを想定しています。1番目の議題については30分くらいで終わって地域振興に対する意見交換に時間をとって皆さんからいろいろご意見をいただきたいと考えておりますのでご協議のほどよろしく申し上げます。今日は本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

2. あいさつ（武田支所長）

皆さんこんにちは、年度末の大変お忙しい時期、しかもコロナウィルスが猛威を振るっている時期であります。お集まりいただきありがとうございます。ただ今、会長からお話ありましたが藤島地域は今のところ大きな影響はないようですけれども、鶴岡市は観光業を中心に影響がでているということでもあります。市も補正予算を25日最終日に提案するという準備を進めております。本日は、藤島地域の振興計画を令和元年度にスタートさせたわけですが皆さんからご意見を頂戴したいと思います。ご承知のとおり藤島地域は、農業振興、ふじのまちづくりそして暮らしの再構築の3本柱で取り組みを進めてきました。令和元年度はその本格的な取り組みの初年度でありました。後ほど担当から説明しますが設定した成果指標をみますと特にふじのまちづくりでは目標値を大きく上回る実績をあげることができておりますし、暮らし再構築でもまずまずの取り組みではないかと思っております。このあと令和2年度の取り組みについて説明させていただいて皆様からご意見をいただくことになるわけですが実は令和元年度藤島地域のまちづくり未来事業の事業費が6千万ほどでありましたが令和2年度につきましては1千5百万円程度ということで大きくダウンしたイメージになりますが、内容を申し上げますとハード事業が大きく減になりましたがソフト事業については今年度事業と同様についておりますので本年度同様できるものと思っております。ぜひ、いろいろな分野からご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

3. 協 議

(1) 令和2年度藤島地域主要事業について

- ー 資料1、2について説明 ー 総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優
- ー 資料1の各課事業について説明 ー①総務企画課課長 井上克浩
 - ②市民福祉課課長 伊原千佳子
 - ③産業建設課課長兼エコタウン室長 成田譲

(2) 藤島地域振興計画（前期計画）について

- ー 資料3～6について説明 ー 総務企画課課長補佐 叶野仁

○上野隆一 会長 それでは意見交換に入りますけど、今3月で予算についても示されています。この2回目の懇談会の意義づけですが、2年度の骨子が決まっているなか今ここで意見がいろいろ出ると思います、今後どういう形で施策に反映されるのか。支所長いかがですか。

○支所長 本来であれば予算要求前ということですね。予算要求前に開催するというスケジュールが理にかなっているのですが、そういった意味で遅れたことをお詫び申し上げます。基本的には昨年策定しました藤島地域振興計画がありますのでそれを柱にしながらいよいよ今日いただいたご意見は予算として令和3年度以降になるわけですが計画に肉付けして取り組んでいきたい、実のある取り組みにしていきたいと思います。

○上野隆一 会長 はい、わかりました。予算というのはアバウトなところがありますので、緊急性があれば来年度採用ということになるかもしれませんので、今年から来年にかけての話し合いをやるということを前提に皆さんから質問、意見をいただきます。

○A 委員 先ほど説明を聞いて、ヒスカはお客さんも増えて売り上げも上がったということだが信じ難いが。全般的には良かったと思います。人口を増やすということは魅力あるものがないと、鶴岡市から藤島に移ってきては意味がない、他県から、それには相当の額の支援が必要です。藤島に住めばある程度の子育て支援がある、福祉もしっかりで住宅支援も世間をあっと言わせるような制度でないと。藤島は雪があつて大変なところなのでなかなかこないのではないか。人口を増やすには若い夫婦とか嫁さんがいない人も相当数おりますのでそういう抜本的なことが必要だと思います。

○上野隆一 会長 先ほどの話を聞くと昨年6000万円の予算が1500万円に減った、ハードが少なくなったということだがなんとなくトーンダウンではないか。多少批判的なことでもいいので何か発言してもらえませんか。

OB 委員 藤島は何と言っても農業だと思う。人と環境にやさしい、ということで有機農業を前面に出しすぎてはいないか。有機農業で労力軽減、品質向上、安定生産となかなか容易でないのかと思っている。藤島地域で有機の占める割合は1.5%位でずっと横ばいの状態です。ハードルを下げて特別栽培も含めて進めていったらいいのではないかと感じています。

公共交通導入事業については、私も意見を述べさせていただきましたが、地域の特性で庄内町、三川町、酒田市にも買い物、通院が多いのでなんとか行政区域を超えた取り組みができないものか。

あと一つは、道路公共事業、冠水対策事業で地元の説明会を行っているのか。長沼地区は大雨が降ると冠水するわけですが詳しく説明をお願いします。

○武田 壮一 支所長 それでは私から最初の2点について、有機のみということではなくて有機に関して藤島は伝統的に早くから取り組みがあり現在藤島のなかに有機認証する部署があります。また、鶴岡市の有機農業推進協議会の事務局も藤島にあります。鶴岡市の中の有機農業の本場は藤島にあるのかな、ぜひ強みを生かして取り組みを行っていききたい。少ない有機農業者に頑張ってもらいよりも多くの方が減農薬に取り組んでいただいた方はるかに環境に配慮した農業だと思っている、有機だけでなく特別栽培の方も推進していきたい。庁舎としては有機と特裁の割合をもっと伸ばしていきたい。そういう目標を掲げているのでご理解いただきたい。昨年、元気食楽部を立ち上げてまだ実績がないが、令和2年度は実績を上げていかなければ、と考えている。この元気食楽部と農協さんから先ずは地元で米を販売していけないかと考えている。特別栽培米が基準になると思う。庁舎とJAの新たな取り組みとして。

八栄島長沼地区の地域公共交通については、余目、三川と市以外への乗り入れの話でありました。そういった要望があるということ調査の中で把握しておりますので関係する町と協議を行って可能であれば実施を検討していききたいと思います。

○成田 産業建設課長 長沼地区の冠水対策事業は、二段書きになっておりますが上の事業は補償がメインとなっている事業です。下の部分は繰越事業となっております2000万円の予算となります。下通と宮東の間に2m×2mのボックスカルバートを設置し排水対策をする工事設計ができましたが、水道、下水道を移設しながらの工事になります。最上川土地改良区が行う排水工事には市が負担金で700万円ほどの工事となりますがこれも順次進められていく予定です。

OB 委員 1番目、2番目はわかりました。3番目の説明会は行われていますか。

○成田 産業建設課長 説明会はこれからになります。

○上野隆一 会長 私から B さんに聞きたいのですが、公共交通導入事業の中で行政区域を超えた、とおっしゃいましたがどういうことを想定しての発言か。

○OB 委員 当初の説明では行政を超えての取り組みは難しいとの話だった。そういう説明があったのですが、地元としては買い物、通院が行政を越えているのでなんとかそういう取り組みができないか、という話です。

○上野隆一 会長 つまり、民間を交えてという話か。要するに行政に任せないで民間、例えば NPO に任せるとか。（「行政区域を越えて」、という声）行政の区域枠を越えてということか。わかりました。

○OC 委員 観光協会という立場で、まつり振興事業ということで予算を組んでいただきました。三大イベントに加えて、歴史公園のイルミネーション、ふじ関連イベント・施設入込数が 2 万 1 千人から 5 万 1 千人と増えているのはイルミネーションだと思っています。藤島地域の PR、活性化につながっていると思う。元気づけられいい結果になっていると思います。ただ、目標年度 3 万 6 千人はもっと大きくてもいいのではないかと個人的には思っています。これほど藤島歴史公園を PR できて一杯人が来てくれるという意味合いでは、もっと費用対効果を出せる施策をやれないか。ほかの会議でもそういう意見もありますのでぜひこれを藤島の重要なポジションにあると思うので。観光協会とすれば、春夏秋冬と一年を通じてイベントできることをとてもうれしく思います。歴史公園、イルミネーションだけでなく藤の花をメインとしての時期以外にも観光客が来てもらえるような全般的にみて、皆さん各課であれもやりたい、これもやりたいということになります。ただ、予算額からみても絞ってやれないのか、5 年計画であれば 5 年でやっ払いこうとするとどうしてもインパクトに欠けてくる。予算も平準化してしまうと思うのでポイントを絞って、2 年間でこれ、3 年間でこれ、といったように。ちょっと予算が少ないということもあるので感じました。

○上野隆一 会長 実は、私も話を聞いて 1 千 5 百万円も大体額が小さいのだけど、1 3 万とか 3 0 万とかこれでなにができるのかと、思ってみていて。あまりにも予算を細かく分けすぎているのか。これぐらいの予算であればもっと、粗々でいい、あとは臨機応変に優先度の高いものから予算を消化していく。あとは目標値、目標年度 1 0 年後は夢物語になってしまうのでもらった計画も最終年度が 2 0 2 3 年度なので、できれば 2 0 1 7、2 0 1 8 と細かい方が説得力があつていいと思う。2 8 年度の数字はどう考えればと思った。

○武田 支所長 目標数ですが、ふじは大きくクリアしましたので変更修正しております。平成 3 0 年度に地域振興計画を策定しておりますが 5 年後をにらみ作り込んでいます。こ

の計画が同時に市の総合計画も作っておりそれが10年スパンとなっており、それに合わせて今日、こういう資料を準備させていただきましたが、計画は5年後の数値ということを設定しており、資料のまとめ方としてわかりづらかったかと思っています。

○成田 産業建設課長 Hisu 花の部分で少し。イベントを展開する場所がないですが、皆さんご覧になっている小屋が建っているかと思いますが、ワークショップ等の意見を受けまして来年度からはいよいよ芋煮会や、バーベキュー、そういった利用方法を展開していきたいと思っています。ただ、市の施設を例えば火を使ってするような事業で開放するというのは初めてです。ここで失敗するとこれまでの取り組みも水泡に帰してしまう事もありますので慎重に進めながらも新たな公園の使い方、藤島らしい発想とそれをやっていくという部分で公園が活きるように役立てていきたいと思っていますし、いづみやさんの出店期間中もとても賑わっております。引き続き空いている場所を違う店舗さんを継続で募集しておりますし、キッチンカー等の販売店さんもその都度受け付けしながら商売している皆様にお金が落ちる仕組みを続けていきたいと思っています。残念ながらキッチンカー等は地元藤島の方が少なく、鶴岡の方あるいは三川の方からの業者さんが多いですがそれでもそういう風な場所だという事を地域の人からイメージを持ってもらうためにもそういう取り組みについては継続で展開して参りますので出店とご協力を合わせてお願いしたいと思っています。

○OD 委員 私の方からは何点かありますが、まずは建設の方ですね。今、空き家という問題がどこでも出ていますが、ただ片付けるではなくてその家を使ってリフォームして住んで頂くとか、住みやすい町を作る上では年配の方や子育ての方が住みたいと言う人がいた場合、目的に合ったリフォームをする際になんらかの手助けをしてあげるという事で人口を増やしていく、ただ建てる、新しい所を求めるという事ではなく無駄にしないことを考えた仕組み作りなんかあるといい。それから、今、長寿社会の中で夏休みにラジオ体操をしている子供たちがいらっしゃいます。できれば市の方からも子どもと老人と一緒にコミュニティーを結べるような、夏休み体操クラブみたいな、そういうものをやるとメリットがある。健康づくりは当然ですけれどもそういった政策があってもいい。子どもの事わかんないですよ、どこの家の子なのか。そういう事も含めて地域連携という事での推進があるともう少し賑やかになると思います。運動会もいいですが、運動会だけだとなかなか出る人、出ない人いますのでそういった地域づくりがあれば尚よろしいかなと思います。それから、庄農の学校のあり方ですけれども、募集してもなかなか来ないという事で。うどもやっていますし食品加工から何からやっております。提案なのですが、調理師の免許なんか取れるような学校にしてほしい。酒田にはあるけど鶴岡にはない、そういうところで色んな調理人の方を呼んでそういった勉強、そこで地元の産物を使った勉強ができるようになればいいのかなと思っています。それからもう一点、祭りのあり方です。ふじの花まつり、夏祭り、秋祭りありますけれども、農産物祭りというような形で農産物をもう

少し取り入れた内容にしてほしい。お米ですが、江戸川なんか行くと一升榊にテニコ盛りで売っていたり、売り方の勉強にもなりましたが藤島の地域だけじゃなくて内陸でもいいですし庄内地区、全市町村の名物を持ってくるとかそういうやり方でもいいのではないかと。頑張っている団体さんがいれば刺激にもなるし、そういった所にも出店して頂く。本当の農産物祭りのような形の一部設けてやってもいいのかなという風に思います。環境保全農業とかあったりしますけれどもこの辺は今でも充分やられているので、そういうところでは。

○武田 支所長 住宅のリフォームについては、資料に載っている住宅リフォーム支援で、庄内町、三川町、酒田市との比較がありますのでご覧になって頂ければと思いますが、商工会の方々にもこの資料で説明したのですが鶴岡市にも同様にあるのですが色んな要件が細かすぎて分かりづらい、使いづらいという指摘もございましたのでこれについてはうちの方でどうこうできないですがそういった意見があったという事は伝えておきたいとします。そのほかに庄農の調理師免許。これはうちの方に庄農との地域連携協議会がありますのでそれを通じてそういう意見があり、非常に魅力的な案だと思いますので伝えたいと思います。祭りに農産物をもっと取り入れてという意見、これは本当にいい考えだと思います。去年の祭りには農産物元気食楽部の方で色々やらせて頂きました。色々インパクトも得たようでしたので、今お聞きしたお米の一升榊に入れた売り方とかそういった事も勉強して、農産物というのは藤島の売りでもありますのでぜひ大きく取り入れ、他の地域のお土産とか特産とか、もし入れられる可能性があるのであればそういった物も検討していいのかなと思っております。

○伊原 市民福祉課課長 高齢者の方と子供さんの方が一緒にやるような事業という事で、今、市民福祉課の方で直接そういった主体的に実施している事業というのはないですが、各地域の活動センターさんですとかそういった所で世代間交流事業みたいな形で高齢者の方と子供さん方が一緒に交流する事業を年何回かやっているように認識はしています。あと藤島児童館の事業の中とかそういった所でも毎回ではないですが機会を設けてやっているようです。ただそれをメインで私の方で具体的に高齢者の生きがいをづくりとかそういった観点から作っている事業というのは今の所ないので今の事業どんなものがあるか調べてみてもっと必要かどうか合わせて私の方でも検討してみたいと思います。ありがとうございます。

○OD 委員 リフォームの件ですけれども、こちらの方は、そこにいる人がリフォームという事ではなくて移り住みたい、それであなたに合わせたリフォームを提供します、それに対して補助金が出ます。そうでないとなかなか人が集まってこないという相談が出来るというような事をやると同じリフォームでも違ってくるのかなという意味での話でございます。

○上野隆一 会長 特に庄農の調理師免許については産業建設課の方で必ず話し合いをしてもらいます。あと農産物祭りもここで話が出て具体的にどこでこういう企画が出来るか出来ないかというのを作業部門がしっかりしてないと断ち切れる可能性もありますので、今ここで討議します、検討できますか？

○成田 産業建設課長 農産物となると秋になるのですが、秋祭りというのはJA ふじしま支所まつり、わら文化大祭と、食と農祭りという事で実は3つセットなんです。農産物の販売部分に関して言うと大変恐縮ですがJA たがわさんの方にお任せしている所はあります。そうった声があったものをたがわさんの方で組みつつ展開して頂けるというのが一番理想的な形だとは思いますが。

○OE 委員 ソフト事業については各年代から色んな要望が出されており、それをいかに行政で取り入れていくか、皆さん大変苦労したかと思いますがよくまとめたなという感じで私は見ておりました。ただ先ほどから出ているようにあまりにもどれもこれもという事になると何もできなくなってしまうので、ある程度は的を絞ってやっていく事が肝要なのかなという事を要望しておきたいと思えます。そしてハードの事で10年先の話になりますけれども、今鶴岡はどう見ても庄内の中心となって、稲作も中心となって鶴岡の産業そのものの中心をなすもの、稲作というのは。それを今後10年先15年先どう捉えていくかが鶴岡市の発展そのものに繋がっていくだろうという風に考えております。したがって今までは色んなことを私共県や国に要望してきましたけれども、なかなか取り入れてもらえなかった。その一番の理由がこれだけ米が売れない中、米だけを主張してはだめだと。もっと高収益作物を取り入れなさいと一点張りで押されてきたのですけれども、私はちょっと違うかなと思って見ていました。どうしても高収益作物、今のこの鶴岡の状態では出来ない。やっぱりそれを進める上では根本的な一番の生産基盤の整備をやらないとだめです。大区画にして将来のAI農業に耐えられるような物にしていかないと高収益産業の方にも向いていかないと、どうしてもやっぱりオール鶴岡というのは米を中心とした農業というものを進めていってもらいたいなと思っております。これはなかなか難しい話になってしまいますけれども、ただ幸いなことに令和2年の国の予算の中に、次世代型農業の基盤整備という言葉が出てきていますので一歩前進していると見ていますのでぜひこれはオール鶴岡で進めて頂きたいと思えます。おそらく10年15年長いスパンになりますけれどもそれが今後の鶴岡の農業の発展に繋がるのかなという事を要望しております。

○上野隆一 会長 土地改良事業のことですね。確かに長い期間かかる感じだと思いますが、絶え間なくやっていかないと、今年来年どうこう出来る話ではないですけれども。支所長お願いします。

○武田 支所長 庁舎でどうこう出来るレベルではないですが、オール鶴岡という事で頑

張っていかないとなかなか獲得できないものではありますが市をあげて頑張ってもらわなければならないと思いますし市は市で簡易な圃場整備をしています、実はうちの方の事業の中でさっき課長も言いましたけれども農協と連携して、具体的には30アール2枚を1枚にして自分の持っている機械でやれる範囲で1枚区画を大きくして低コストカットとか効果を見ましょうという取り組みも30年度から、令和2年度にも取り組みます。

OD 委員 一町歩の畑、田んぼはすぐ出来ない。とすれば三反歩2枚を1枚にしていわゆる100枚ある農家を田んぼ50枚にしてどれだけコストが下げられるか。

OE 委員 いわゆる庄内支庁で考えた圃場整備、簡易な圃場整備というのは、私も乗りなさいとだいぶ進められたのですが実はこれ撥ねたのです。というのも基盤整備の仮にこれで行きましょうと、とりあえずこれで行きましょうというのがないのですよ。これやったら今世紀終わりですよ。果たしてそれで換地をやってもだめ、面的なものは自分でやりなさいと、ほんとに出来るのかなと思ってだいぶ検討させたのですけれども、やっぱりこれは無理だと。やるのだったらちょっと時間がかかっても完全な大区画圃場整備をやらないとほんとの物には結びついていかないよと私共は結論を出しています。

○支所長 E 委員が言っているのはただ単に圃場を大きくして効率化というだけではなくて集約、集積だけでなく集約してという非常に広い視点で考えていますのでその路線はブレずに追及していく事は大事かと思えます。

OF 委員 子供が増えない、増やしたい、それから若い世代も増やしたいという思いは同じです。前々から隣の三川町はすごくいいのよね、という話を聞きます。資料の出産祝いの欄を見ると鶴岡市は紙おむつ1パック配付“券”と書いてありこれはすべてに当てはまると思うので三川町がすごいなと思って見ました。こういう手厚い政策を講じているからあちちに行くのだろうと正直思いました。この辺を鶴岡市全体で、前はランドセルくれたのに今はくれないなどランドセルに限らずに若い世代を増やしたいのなら、こういう事もうちちょっとやっついていかないと結婚する人も少ないという表も出ていましたし、子供いるといいよねという皆に浸透していくのが増える手立てかなと思いました。それから、庄農うどん先ほどの欄に出ていますし、すごく好評でしたね。私も食べに行きたくて行ったのですが売り切れという風に言われた事が何度かありました。それこそ入学するお子さんが少なくなっとうどん部の維持も大変な所だとは思いますが、地域からそういう風にして喜ばれる物を作る、先ほどの調理師免許だとかそういう風な形をなるべく取り上げる力を大きくしていけば、庄農ももっとこう入る人も増えるのではないかという風に思います。そういう意見を取り入れる力が欲しいと思います。それから、Hisu 花ですけれどもイルミネーションすごく好評でしたし、全然知らない人から「Hisu 花やってるよ、この時間になったら点灯するから来てみてとかあちこちに話してみたら行ってみたらすごかった！」と、もっ

とこう宣伝したらどう？」という風な事を言われました。テレビに出るとすごい人が増えるかなと、出ましたよね？点灯式の時のそれが新聞にも出たのでそういう宣伝効果というかそういうのはすごく大きいなと感じましたし、点灯式の時の賑わいというかお店も出ていましたので、あれを毎回というのも難しいかもしれないですが、Hisu 花活性化委員会みたいな、ワークショップもやっているようですけれどもそれに地元の商店の人達もまぜて、それからキッチンカーでしたか？その方々もまぜて色んな場面でそういうのがあるというのが、そのいづみやさんが頑張っていた時は結構商品もいっぱいあってすごく美味しかったのでああいう所も含めてもっと活性化に繋げるように実行委員会なりなんなりをして欲しいなと思います。それから市役所職員という方々の役割として先ほど10年後は長くて私方生きているかわからないという話がありましたけれども、目標というかこういう風に鶴岡を引っ張っていきたいという大きいビジョンみたいなものも導き出して頂くこともすごくいい目標になるのではないのかなと思いますのでそれもぜひ頑張ってくださいと思います。以上です。

○上野隆一 会長 私も F 委員の話の中で、色々まだ私なりに話したい事もあるのですが時間も時間ですので一つだけお話をさせていただきますがこの天気、一年間の天候ですが、11月～3月までが残念ながらどう見ても一番だめな時期です。農閑期と言えばいいかな、やっぱり本当に希望を持つのは4月～10月までだと私は思っています。その4月～10月までという期間でこのイルミネーションはやってないわけです。夏時期に皆が華やかに、楽しい時に更にイルミネーションでムードをあげていくのが必要じゃないか。やっぱり冬の時期に来ると言ったら傘差しながらではちょっと寂しいですね。店を開いても風が強かったり雪が降ったりしたら綺麗だと言うものの本当の賑わいというのはやっぱり気温が高くないとだめです。ですから夏期間の活用をどういう風にするかという事も考えてもらえればありがたいかなと思っていました。F委員の話を聞いて回答ありますか？

○武田 支所長 まず一点目の子育ての支援。比べると一目瞭然劣りますので私も非常に悔しい思いをしております。まったく同感です。ただ一つだけですね、学校給食費の支援は実は鶴岡市だけです。給食費には一人年間6万円くらいかかり、第三子だけですけれども色々条件があるので丸々小学校6年、中学校3年丸々もらえるかどうか一概には言えませんけれども、仮にずっと支援を受けると50万ほどになりますので、鶴岡も色々要件をクリアするとそれなりの子育て支援になります。ただ分かりにくいし誘導策になっていないとい、インパクトになってないのでその辺の伝え方の問題なのかなと思います。ただそういう要望があるという事は受け止めたいと思います。また庄農うどんはそういった要望については協議会を通じて庄農の方に繋がりたいと思いますし、Hisu花のPRまだまだ努力しなければなと思います。テレビ見ても天気予報で映るのは東根のイルミネーションで、たまに違うものを映してもらいたいと思うぐらいですし、市長の方からもネットで検索しても鶴岡のイルミネーションに藤島が出ない、鶴岡が出るけどなぜなのかと言われました。市

の観光物産課と連携しPR面も改善して頑張っていきたいと思います。それから点灯期間も会長からも言われましたし色々な所からももっと長くした方がいいのではないかというような意見も頂いているので、今、点灯の仕方とか発信の仕方はワークショップの方々と一緒に検討されていますのでそういう意見があったという事を伝えながら考えていければと思います。また、市役所職員の基本は市のビジョン、総合計画であり、藤島地域で言えば地域振興計画になりますけれども、そういった計画をどういう方向に向かうかというのはまとめてあるわけです。その辺は新任への伝え方がまだ上手くないという事だと思いますのでそこは肝に銘じていきたいなと思っております。

OG委員 人と環境にやさしい農業推進事業、有機農産物、仕事で米販売をしている関係もあって有機は絶対良いと思います。実感します。ただやっぱりここに労力の軽減及び品質向上と書いてあるのですけれども、そこをクリアする何かというのを、とにかく何でも最新の情報を取り入れて藤島が一番この技術に一番特化して日本一ここが技術的に進んでいるという事のためにたくさん予算も使って、ここをとにかく特化してもらいたいなと思いました。そうすれば多分自然に利益も出ていくと思うしどこよりもすごいと、一番というのを目指してみたらいいのかと思いました。あと、皆さんの意見を聞いて皆さんの各分野の考えている事が素晴らしいと思ったので、地域の住民皆さんの藤島地域に対して良い思いをたくさん持っていると思うのでそれを聞く機会とか、吸い上げる窓口というかアンケートでもいいしそういうようなのをやると色々な意見が出てくるのかと思いました。あとD委員が言っていた子どもと老人の事もすごくいいなと思って、やっぱり中央でやってもそこに集まってくるのは一部の人なのかと。一生懸命な人、一生懸命な子どもを連れて親が来るという感じだと思うので各町内会レベルでのラジオ体操もすごくいいなと思って、そこに住んでいる子どももお年寄りの人と会いたいと思うのです。どういう人が住んでいてどんな顔をしているのか。元気だねとか、そういうのが会える場ってなかなかない。4回くらい？その声掛けもほんと身近なレベルで何か町内会の中とか子供会とか、そのくらいの小さい中で近所の中で声掛けてやっていかないと、なかなか「これをします」は一生懸命な人しか集まらないのではないかと思ったので、それを早速自分の町内会でなにか出来たらと思いました。あと人口減少と子どもの減少については深刻すぎてどうしたらいいかと私には分からないという感じで、例えば新規で渡前とかに住むという人、そんな人がいるわけない、自分がもし同じ立場に置かれてもどこに家建てるとか言った時に、そこで生まれ育っているからそこにいるけど他から来る理由って何？と全然イメージがつかないのでやっぱりこれはすごいハードルが高いかと思いました。でも可能性はゼロではないと思うので全国で成功事例とか、こうしたら良くてずっと続いているとか、すぐいなくなるとかではなくてというのを勉強して取り入れられる部分は取り入れていくしかないのかと思いました。あとこれから車社会、今は車でどこにでも行けますけれども車を運転しなくなった世代になった時に地域の中でどうやって過ごすのかと、そういう世代になっても楽しく過ごせる何か、未来図みたいなものを今今の話ではないのですがこの減少率で見ると多

分そういう世界になっていくと思うので、考え住んでいる人が楽しく住める場所がいいのではないかと思います。ここは整備されすぎて綺麗な町なのでちゃんと整備された町にいれるというのはすごく良い事だと思うので努力の結果だと思いますし、継続しているのですごくいいなと思いました。以上です。

○上野隆一 会長 酒田市でも「日本一シニア世代にとっては住みやすい町」になっているとか、藤島でも色んな事を探り出して、スポットを当てていければ良い部分も出てくると思うのだけれども、ただ通り一遍ばらばらと考えたのでは魅力がなかなか続きにくい、やっぱり少し深まった議論というのが大切なのではないか。G委員が言われるようにぐんぐんと深みのある議論、E委員の話だって色んな三川町の魅力を、魅力競争を演じるとかそれは鶴岡市が演じるのではなくて藤島地域が三川町と演じるでもいいし、そういう部分が出来ればそれはそれで面白い話になりますので、考えれば出来る事はあると思いますので色々考えていきましょう。何かあればどうぞ。

○武田 支所長 G委員が何点か話していましたが、「有機」一番を目指して下さいという話、まだまだ限定した人しか取り組めない現実ですけれどもYDがどういう動きをしているのかも察知しておりますし多分どこの地域でもいち早くそこに足を運んで、庄内ルーツという有機を基本としたブランド作りをしようとしていますけれども、そういった動きの活用も他の地域に先駆けて動いております。なんとか前に進めて藤島の稲作農業というのは国内でもトップクラスだと思いますけれどもそこに有機農業でもトップクラスと、目標としては持ち続けたいなと思います。あと地域の意見、まずこれは吸い上げるのは重要な事ですのでこれは常に心掛けたいし、人口減少に立ち向かうというのはこのすべての取り組みの根本にあるという風に考えております。A委員も言いましたけれども鶴岡の中で取り合いしてもだめだと、非常にハードル高いのですけれどもただ鶴岡市は4月から今度SEEDSと言って農業の分野では他所から人を引き込んで定着させるという動きを始めましたので、ああいった所との連携は、藤島の農業というのは強みでもあるので強化していきたいと。渡前だってどういう特徴があるかという他と変わらない部分が多いかもしれませんが農業というのが一つの特徴でもあるのでSEEDSとの連携なんていうのは移住という可能性を高めるのではないかなと思っております。ご意見頂いたものについてはサポートさせて頂きたいと思っております。

○E委員 SEEDSは何人ですか？

○武田 支所長 13名です。10名予定していたけれどもまず13名。申し込みはかなり多かったと、意欲的な方が多いと。

○E委員 県内？県外？

○**武田支所長** 県外とか色々なパターンがあつて市内に 2 人いるけれども基本的には市外です。

○**成田産業建設課長** 跡取り就農という人は一人しかいないそうです。あと 50 歳すぎの人が 2 人とか、常任委員会での情報です。

有機に関して少しだけ話します。私もそうでないと思っていたのですが、去年の暮れから鶴岡市の方に全国からすごい視察が来ています。有機で町おこしをやっていきたいという自治体が、SEEDS の取り組み然りここに認定機関があるという事で、我々が思っている以上に評価は高いようです。私も大したことはやっていないという風に思っていたのですが周りではそうやって見ていない所があるようです。実は鶴岡市、有機農業で地域おこしをする自治体ネットワークというのにも加盟してまして 30 数団体の中の一つになってしまして、そういった面でも非常に注目されているようです。色んなラインナップがある、米を作らせたなら、安くて美味しい米、あるいは有機のトップの米、全部あるんだよというような所を私個人的には地域の魅力にしていきたいという風に実は思っていて、米だったらどういふ米も作れるんだぞ、というような米に対しての自信がある地域にしていきたいと私は理想を持っておりますし、そういう風な事が対外的には出来るとみられていると皆さんにお伝えしておきたいと思ひます。

○**OA 委員** 全般的に去年から見ると会長も言っていましたか 1,500 万円に減つたと、来年は増える予定があるのかはわからないが会長も私も全く同意見だけれども、1,500 万円を輪切りにしては全然議論が進まない。何かやりたいって、仮に定住支援なんかと言つたつて 17 万 7 千円では話にならない。全部ではなくても藤島としては何をやりたいかというのを会長はじめこういう会で議論しないと、増えるのはいいが最終目標は一億円などと言つているが無理だと思うけれども要するに輪切りした予算では話にならないと思う。机上の空論で終わるような感じがする。その辺も会長も補佐して下さい。

○**上野隆一 会長** 時間も時間でまだまだ話し足りないような、機運はありますけれどもまず協議の方は終わります。大変どうも色んなご意見頂きましてありがとうございます。

(3) その他

6. 閉 会 (井上克浩 総務企画課長)

ありがとうございます。(1) と (2) 終わりました (3) その他を準備しておりましたけれどもこちらからは特にございません。皆さん何かありましたら話して頂けたらと思ひます。それでは、さまざまな分野のご意見頂戴致しました、ありがとうございます。しかも打者一巡致しまして皆様からご意見頂きました。今後の政策に活かしていきたいと思ひま

す。それでは以上を持ちまして、第2回目の懇談会を終了したいと思います。まずどうもありがとうございました。